

企画・執筆者紹介 (五十音順)

相原聡美 あいはら・さとみ

佐賀大学医学部附属病院 産婦人科(腫瘍内科)
1972年佐賀県生まれ。1996年佐賀医科大学卒。佐賀医科大学総合診療部で研修後、2001年国立がんセンター中央病院内科レジデント、2007年佐賀大学医学部医学系専攻科卒業。2010年より現職。専門は腫瘍内科学、婦人科がん化学療法。

五十嵐 中 いがらし・あたる

東京大学大学院薬学系研究科 特任准教授
2002年東京大学薬学部薬学科卒業。2008年東京大学大学院薬学系研究科博士後期課程修了。2008年から同大学院特任助教を経て、2015年から現職。専門は薬剤経済学。医療経済ガイドラインの作成・個別の医療技術の費用対効果評価・QOL評価指標の構築など、多方面から意思決定の助けとなるデータの構築を続けてきた。これまでの著作に、『医療統計わかりません』(東京図書、2010年)『わかってきたか医療統計』(東京図書、2012年)、『薬剤経済わかりません』(東京図書、2014年)などがある。

市原 真 いちはら・しん

札幌厚生病院 病理診断科
1978年北海道生まれ。2003年北海道大学医学部卒。2007年北海道大学大学院医学研究科分子細胞病理学博士課程修了。国立がん研究センター中央病院病理部にて半年間の任意研修後、2007年10月より札幌厚生病院病理診断科。病理専門医、臨床検査管理医、細胞診指導医。
Twitter: @Dr_yandel

上園保仁 うえぞの・やすひと

国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野
1959年宮崎県生まれ。1985年産業医科大学卒、1989年同大学院修了。医学博士取得。1991～93年まで米国カリフォルニア工科大学生物学部門留学。2004年長崎大学大学院医歯薬学研究科内臓薬理学准教授。2009年より現職。2015年より国立がん研究センター先端医療開発センター支持療法開発分野分野長を兼任。専門は分子神経薬理学、緩和医療学。
著作物として、『Q&Aでわかるがん疼痛緩和ケア』(じほう、2014年)、『長生きするがん治療』(ワニブックス、2015年)、『今すぐ始めたい婦人科がん領域における緩和医療の実践』(金原出版、2017年)などがある。

尾阪将人 おざか・まさと

がん研有明病院 消化器内科 医長
1974年神奈川県生まれ。1999年防衛医科大学校卒。防衛医科大学病院・自衛隊中央病院・淀川キリスト教病院での研修を経て2007年、がん研有明病院化学療法科レジデント。その後、2015年消化器内科副医長、2017年より現職。専門は腫瘍内科、消化器悪性腫瘍の化学療法、特に肝胆膵悪性腫瘍・GISTの化学療法。JCOG肝胆膵グループ代表委員

勝俣範之 かつまた・のりゆき

日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科 教授 外来化学療法室 室長
1963年山梨県生まれ。1988年富山医大卒。徳州会病院での研修を経て1992年、国立がんセンター中央病院内科レジデント。その後、同センター専門修練医、第一領域外来部乳腺科医員を経て2003年、同薬物療法部薬物療法室医長。2004年ハーバード大学公衆衛生院留学。2010年、国立がん研究センター中央病院乳腺科・腫瘍内科外来医長、2011年より現職。専門は腫瘍内科学、がん支持療法。これまでの著作に、『がん診療レジデントマニュアル』(医学書院、初版～第5版)、『誰も教えてくれなかった婦人科がん薬物療法』(メジカルビュー社、2015年)、『がん治療まるわかりBOOK』(照林社、2015年)、『「抗がん剤は効かない」の罪』(毎日新聞社、2014年)など。

門倉玄武 かどくら・げんむ

日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科 助教
1981年福岡県生まれ。千葉県育ち。2007年信州大学卒。信州大学、諏訪赤十字病院の初期研修を経て、2009年より諏訪中央病院後期研修医、化学療法部スタッフ。2013年より現職。専門は腫瘍内科学。

川上和宜 かわかみ・かずよし

がん研有明病院薬剤部 主任
1974年岡山県生まれ。2000年昭和薬科大学大学院薬学研究科修了。2000年4月より癌研有明病院薬剤部勤務、2011年公益財団法人がん研有明病院薬剤部主任、2013年昭和薬科大学にて「Paclitaxelによる末梢神経障害重篤化のリスク因子解析及び基礎的研究」にて博士(薬学)取得(田口恭治教授)。2015年より現職。研究テーマは、抗がん剤による末梢神経障害、経口抗がん薬のadherence。これまでの著作に『今日の治療薬』(南江堂)、『がん化学療法レジメン管理マニュアル』(医学書院、2012年)、など。

北野滋久 きたの・しげひさ

国立研究開発法人がん研究センター中央病院 先端医療科
先端医療開発センター新薬臨床開発分野・免疫療法開発分野
1972年大阪府生まれ。1998年三重大学医学部卒、同大学内科学第二講座に入局、同科関連病院にて一般内科研修を行なう。2001年、三重大学大学院医学系研究科入学、造血器腫瘍と固形腫瘍の診療を行ないつつ、新規がん免疫療法の臨床試験、患者免疫応答解析の研究に携わる。2005年、同大学大学院医学系研究科 遺伝子・免疫治療学講座の助手。2008年、同血液・腫瘍内科助教。2009年、Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, Ludwig Center for Cancer Immunotherapy (Drs.Jedd Wolchok and James Allison)に留学、免疫チェックポイント阻害剤(抗CTLA-4抗体療法、抗PD-1抗体療法など)の新規がん免疫療法の開発、臨床試験登録患者の免疫応答解析を主としたトランスレーショナルリサーチ(TR)に携わる。2013年帰国、国立がん研究センター中央病院に赴任し、新規がん免疫療法をはじめ各種新規薬物療法の早期臨床試験、TRを行なっている。専門は腫瘍内科学、腫瘍免疫学、がん薬物療法(特にがん免疫療法)。

木村美智男 きむら・みちお

大垣市民病院 薬剤部
がん専門薬剤師
1967年岐阜県生まれ。1990年、明治薬科大学薬学部衛生薬学科卒業。同年、東京都新宿区牛込保健所入職。翌1991年、大垣市民病院薬剤部に入職し、2010年にがん専門薬剤師、がん指導薬剤師取得。2014年には岐阜薬科大学にて学位を取得。賞罰として、平成27年度東海支部学術奨励賞受賞、日本臨床腫瘍薬学会学術大会2017優秀演題賞受賞。

國頭英夫 くにとう・ひでお

日本赤十字社医療センター 化学療法科 部長
1961年鳥取県生まれ。1986年東京大学医学部卒業。国立がんセンター中央病院内科などを経て現職。日本臨床腫瘍学会協議員・日本肺癌学会評議員。
これまでの著書に里見清一名義で『偽善の医療』（2009年）、『衆愚の病理』（2013年）、『医師の一分』（2014年、すべて新潮新書）、『誰も教えてくれなかった癌臨床試験の正しい解釈』（中外医学社、2011年）など多数。

倉井華子 くらい・はなこ

静岡県立静岡がんセンター 感染症内科 部長
1977年5月4日生まれ。2002年富山医薬大卒。都立駒込病院の堅守を経て、2005年横浜市立市民病院感染症内科。2010年静岡県立静岡がんセンター感染症内科。専門は臨床感染症、感染症対策。
これまでの著作に、『がん患者の感染症診療マニュアル』（南山堂、2012）。『がん診療に携わる人のための静がん感染症治療戦略』（日本医事新報、2016）

公平 誠 こうだい・まこと

1979年埼玉県生まれ。2004年に千葉大学を卒業し、千葉大学などでの研修を経て、2006年がん研有明病院化学療法科レジデント。2010年に国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科がん専門修練医、2011年～同医員、2014年～希少がんセンター兼任、2016年より医療法人慈公会公平病院病院長。2017年千葉大学大学院卒業。専門は腫瘍内科であり、Community Oncologistとして活動している。
これまでの著作に『新臨床内科学』（医学書院、2009年）、『What's New in Oncology』（南江堂、2015年）など。

河野 勤 こうの・つとむ

公益財団法人 佐々木研究所附属 杏雲堂病院 腫瘍内科／化学療法部
1970年大阪府生まれ。1996年名古屋大学卒。愛知県厚生連海南病院での研修を経て2000年、国立がんセンター中央病院内科レジデント。その後、同センター専門修練医を経て2005年乳腺・腫瘍内科医員。2008年日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医取得。2010年、杏雲堂病院 腫瘍内科医長。2013年より同院腫瘍内科科長、2014年より同院化学療法部部長兼務。専門は腫瘍内科学、緩和医療学。

後藤 励 ごとう・れい

慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 准教授
1972年静岡県生まれ。1998年京都大学卒。神戸市立中央市民病院での研修後、京都大学大学院経済学研究科で医療経済学の研究を行ない、博士（経済学）取得。2005年より甲南大学経済学部講師・准教授、2012年より京都大学白眉センター・経済学研究科特定准教授。2016年より現職。専門は医療経済学、医療政策。
これまでの著作に『健康行動経済学』（共著、日本評論社、2009年）、『日本のお医者さん研究』（共著、東洋経済新報社、2012年）など。

小林 心 こばやし・こころ

がん研有明病院 乳腺センター 乳腺内科 医長
2005年新潟大学卒。NTT東日本関東病院での初期臨床研修を経て、2007年、がん研究会有明病院化学療法科レジデント。その後、同病院の部門改変を経て、乳腺内科医員となり、2016年より現職。専門は乳腺薬物療法、特に転移再発乳がんの治療。

近藤俊輔 こんどう・しゅんすけ

1974年徳島県生まれ。2000年徳島大学卒。2010年東京大学大学院医学研究科卒。2003年国立がんセンター中央病院内科レジデントを経て、2008年より同科スタッフ。専門は内科学、臨床腫瘍学。

齋藤信也 さいとう・しんや

岡山大学大学院保健学研究科 教授
1958年岡山県生まれ。1983年岡山大学医学部卒。1987年同大学院医学研究科修了（医学博士）。1988年米国ネブラスカ大学医学部外科客員助教授、1998年厚生省中国四国地方医務局医療課長、2000年厚生労働省中国四国厚生局医療課長、2001年岡山大学医学部講師、2003年高知女子大学社会福祉学部教授、後に看護学部教授を経て、2008年から現職。専門は外科学、緩和医療学、医療倫理学、医療経済学。2017年から国際医薬経済アウトカム研究学会日本部会会長。
これまでの著作に『ケースで学ぶ医療福祉の倫理』（医学書院、2008年）、『看護のための医学—患者の命を守り、暮らしを支えるために』（ライフサポート社、2012年）、『医療経済学・地域医療学』（岡山大学出版会、2014年）など。

櫻井公恵 さくらい・きみえ

NPO法人GISTERS 副理事長
1967年千葉県銚子市生まれ。1990年中央大学経済学部卒。2004年、夫が38歳で小腸原発GISTに罹患（2010年に他界）。2014年厚生労働省「がん患者・経験者の就労支援のあり方検討会」構成員。2016年より、日本肉腫学会代議員。本業は株式会社櫻井謙二商店代表取締役社長。

佐治重衡 さじ・しげひら

福島県立医科大学腫瘍内科学講座 主任教授
同附属病院 臨床腫瘍センター センター長
放射線医学県民健康管理センター 地域がん登録室 室長
1968年岐阜県生まれ。1992年岐阜大学医学部卒業。東京都立駒込病院、岐阜大学大学院、埼玉県立がんセンター研究所、カロリンスカ医科大学（スウェーデン）、東京都立駒込病院乳腺外科・臨床試験科、M.D.アンダーソンがんセンター（米国）、埼玉医科大学国際医療センター腫瘍内科、京都大学大学院医学研究科標的治療腫瘍学講座を経て2014年9月より現職。特に乳癌を専門とする腫瘍内科医として診療を行ないながら、ホルモン療法・分子標的治療に関する基礎・臨床・トランスレーショナル研究を継続している。
これまでの著作に『内科学 第10版』（朝倉書店、2013年）、『新臨床腫瘍学』（南江堂、2015年）。『最新 内分泌代謝学』（診断と治療社、2013年）など。

品田雄市 しなだ・ゆういち

東京医科大学病院 がん専門相談員
1973年埼玉県生まれ。2012年ルーテル学院大学大学院博士前期課程修了。現在同大学院博士後期課程在学中。1995年より東京医大病院に勤務し、現在は医療福祉相談係長。国立がん研究センター相談員研修講師を務める他、新宿区や東京都のがん対策推進関連の委員として、地域における包括的かつ効果的ながん患者支援体制作りにも携わる。社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員・認定医療社会福祉士。専門は医療ソーシャルワーク、がん・脳卒中・救命救急などの急性期におけるソーシャルワーク実践。「相談したら気持ちが温かくなった」と患者さんに感じてもらえる相談支援を心掛けている。
これまでの著作に『医療福祉総合ガイドブック』（医学書院、2017年）など。

清水久範 しみず・ひさのり

昭和大学病院 薬局

1996年、昭和大学薬学部薬学科卒。1998年、昭和大学薬学部修士課程修了。同年に昭和大学藤が丘病院薬局入局。2000年、昭和大学病院薬剤部異動。2009年、外来腫瘍センター専任。2010年より係長（現職）。東京都病院薬剤師会がん薬物療法専門薬剤師養成特別委員会副委員長。日本医療薬学会がん指導薬剤師。

日本医療薬学会平成28年度論文賞受賞「進行再発大腸癌のFOLFIRI療法およびmFOLFOX6療法に対するIRIS療法の経済評価—費用最小化分析」医療薬2015;41:153-162.

下妻晃二郎 しもづま・こうじろう

立命館大学 生命科学部 生命医科学科 教授

1956年大阪生まれ。1981年山口大学医学部卒。1985年大阪大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。大阪大学微生物病研究所外科、市立豊中病院外科、都立駒込病院外科、川崎医科大学内分沁外科（後の乳腺甲状腺外科）講師、UCLA Jonsson総合がんセンター留学、日本医師会総合政策研究機構、流通科学大学サービス産業学部教授、立命館大学理工学部教授などを経て、2008年より現職。専門は健康アウトカム評価、医療経済評価、臨床疫学、臨床腫瘍学。日本乳癌学会乳腺専門医。

<http://research-db.ritsume.ac.jp/Profiles/40/0003909/profile.html>

立川正憲 たちかわ・まさのり

東北大学大学院薬学研究科薬物送達学分野 准教授

1978年福島県会津生まれ。2000年東北大学薬学部卒業、2004年日本学術振興会特別研究員、2005年東北大学大学院薬学研究科博士課程後期3年の課程修了〔博士（薬学）〕、2005年富山医科薬科大学薬学部助手、富山大学大学院医学薬学研究部（薬学）助教、ブリティッシュコロンビア大学脳研究センター博士研究員、ジョージア医科大学訪問研究員を経て、2011年東北大学大学院薬学研究科助教、2012年から現職。

立岩真也 たていわ・しんや

立命館大学 生存学研究センター長

同大学大学院先端総合学術研究科 教授

1960年、佐渡島生。専攻は社会学。東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。千葉大学、信州大学医療技術短期大学部を経て現職。これまでの著作に『私的所有論』（勁草書房、1997、第2版生活書院、2013）『弱くある自由へ——自己決定・介護・生死の技術』（青土社、2000）『自由の平等——簡単に別な姿の世界』（岩波書店、2004）『ALS——不動の身体と息する機械』（医学書院、2004）『希望について』（青土社、2006）『良い死』（筑摩書房、2008）『唯の生』（筑摩書房、2009）『人間の条件——そんなものない』（イースト・プレス、2010）『造反有理——精神医療現代史へ』（青土社、2013）『自閉症連続体の時代』（みすず書房、2014）『精神病院体制の終わり——認知症の時代に』（青土社、2015）など、共著も含め多数。その他詳細は、<http://www.arsvi.com/ts/0.htm>

長崎礼子 ながさき・れいこ

がん研究会有明病院 外来治療センター看護師長

がん化学療法看護認定看護師

1971年千葉県生まれ。1993年、国立千葉病院附属看護学校卒。国立がんセンター中央病院外科病棟、計画治療（治験）病棟、通院治療センターを経て2004年より癌研究会附属病院（現がん研究会有明病院）外来治療センター、呼吸器病棟勤務。2006年日本赤十字社看護大学フロンティアセンター認定看護師教育課程修了。2007年、がん化学療法看護認定看護師取得。日本がん看護学会、日本臨床腫瘍学会。

橋本一径 はしもと・かずみち

早稲田大学文学学術院 准教授

1974年生まれ。東京大学文学部思想文化学科卒業。フランス・ナント大学理工学部DEA課程修了。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。愛知工科大学講師を経て、2012年より現職。専攻は表象文化論。これまでの著作に『指紋論——心霊主義から生体認証まで』（青土社、2010年）など。

松本光史 まつもと・こうじ

兵庫県立がんセンター 腫瘍内科

1974年岡山県生まれ。1999年京都府立医科大学卒。2001年、国立がんセンター中央病院内科レジデント、2004年、同病院乳腺・腫瘍内科がん専門修練医。2006年より兵庫県立がんセンター腫瘍内科医長／外来化学療法室副室長、2011年に同センター腫瘍内科医長／外来化学療法室室長を経て、2013年より現職。専門は腫瘍内科学、乳腺・婦人科・希少がんの薬物療法、支持療法。臓器横断的ながん診療を志す仲間を随時募集中です。当科でトレーニングを受けた医師は、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医に全員1回で合格しております。婦人科に限らず、乳腺・頭頸部・希少がんなどを学びたい先生は、ぜひご連絡ください。

真部 淳 まなべ・あつし

聖路加国際病院 小児科 医長

1960年茨城県生まれ。1985年北海道大学卒。聖路加国際病院での研修後、ローマカトリック大学、St.Jude小児病院、東京大学医科学研究所で修業し、2004年より現職。専門は小児血液腫瘍、小児科一般。これまでの著作に『小児がん—チーム医療とトータル・ケア』（中公新書、2008年）がある。

森 玄 もり・たかし

練馬光が丘病院 薬剤室

1973年京都市生まれ。1997年明治薬科大学卒。2003年山王メディカルプラザ薬剤室において化学療法に携わる。2005年国際医療福祉大学附属三田病院 薬剤部、2009年杏雲堂病院 化学療法部などを経て、2014年より現職。また、2007年よりNPO法人 がん情報局 事務局長を務める。専門は乳がん化学療法。

門田守人 もんでん・もりと

地方独立行政法人堺市立病院機構 理事長

1945年広島県生まれ。1970年大阪大学医学部卒。大阪大学講師、助教授を経て、1994年に教授に就任。2004年大阪大学医学部附属病院副病院長、2007年大阪大学理事・副学長。2011年がん研有明病院副院長、2012年同院長・がん研理事、2015年からは同院名誉院長。現在は、日本医学会副会長、厚労省・がん対策推進協議会会長、日本臓器移植ネットワーク理事長。著作物に、『がんとの賢いつきあい方』（朝日新書、2016年）などがある。

山内照夫 やまうち・てるお

1964年鹿児島県生まれ。1988年鹿児島大学医学部卒。聖路加国際病院内科研修後、1992年から国内外で研究に従事。2001年からハワイ大学内科レジデント・チーフレジデントの後、2005年ホノルルでプライマリケア医。2006年モフィットがんセンター血液・腫瘍内科フェロー。2009年聖路加国際病院腫瘍内科医長、オンコロジーセンター長。2010年より現職。

専門は腫瘍内科学、がん薬物療法、がん支持療法。